

論文番号 144

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Alcohol consumption and subclinical findings on magnetic resonance imaging of the brain in older adults: the cardiovascular health study

加齢ヒトにおけるアルコールの消費と MRI による非侵襲的知見

執筆者

Mukamal, K. J., Longstreth, W. T., Jr., Mittleman, M. A., Crum, R. M., Siscovick, D. S.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Stroke 32 (9)1939-46 (2001)

キーワード

アルコール摂取、年齢、萎縮、脳梗塞、核磁気共鳴イメージング

要旨

脳の MRI による研究で、加齢したヒトを対象としては神経的機能と詳しい関連性は明らかでない。我々はアルコールの摂取がどのように関連するかの測定をこころみた。心疾患健康研究の一部として 65 歳の 3,660 人の大人に 1992-1994 年のあいだ MRI を行った。脳血管障害の履歴をもつ 284 人を除外した。ビール、ワイン、酒類に関して MRI を行う数日以内に、アンケートにより自己申告してもらい、参加者を酒を飲まないヒト、以前は飲酒、1 週間に 1 回以下の飲酒、一週間に 1-7 回、一週間に 7-15 回、一週間に 15 回以上の 6 グループに分けた。そして、白質、梗塞部、脳質サイズ、大脳溝のサイズを標準法、およびブラインド法で測定した。

その結果、アルコール消費と白質の異常に U 型の関係を発見した。酒を飲まないヒトに比べると一週間に 1-7 回飲むヒトは OR が 0.68 で 15 回以上飲むヒトは 0.95 であった。多量にアルコールを摂取する人では梗塞は小さいが、脳室および溝サイズは大きくなった。また、適度のアルコールの消費は白質異常の割合がもっとも低くなった。さらにこの MRI により大人の脳の萎縮は投与量依存的であることがわかった。